

# 勝林寺寺報



## ホンコさんの

ご案内

(神戸在住のお年寄り)

出石の「お寺の報恩講さん」がすんだら、但馬には本格的な冬がきて、それからいよいよ村々家々の「ほんこさん」が勤まるのでした。

「今晚ホンコサンで、まいっとくれよー」  
村のこどもたちが、

声をそろえて触れて回るんです。  
いやー、そのホンコサンがなつかしくて。しかも出石のご院家さんに勤めていただくホンコさんが懐かしうて、それで十年も前にお願ひしてみたら、行ってお勤めするよ、と行って、あれから毎年来ていただいているのです。

わたしは戦後すぐに出石をでて、こちらへ引っ越してまいりました。  
出て来たときにこちらの真宗のお寺さんを紹介していただいて、ずっとそれからその寺の門徒にしていたいておられます。おやじもおふくろも、こちらで葬式してもらい、お逮夜まいりもしていただいています。

なんの不足もないのですが、ただこちらには家々でのホンコサンがありません。

としがよるほど昔のことが思い出せませう。  
若い夫婦や孫たちに、じいさんの子供のころのホンコサンのこと、そこでおぼえたお正信偈さん。ご法座の様子など話して相談してみましたら、ありがたうことには、みんなが賛成。出石のご院家さんに来てもらおうということになったんです。

もちろんこっちのお寺さんにもお話したら、「そんなことなら私もお参りさせてもらおうわ」ということになって、これが実現したのです。

ほんんに賑やかでせ。ほんの二時間ぐらいなもんですが、お寺さんお二人、名古屋におります娘も毎年子供連れてやってきますのや。

お正信偈あげて、お説教いただいたて。昔から仏・法・僧いうて、お仏壇の如来さまからおみのりきいて、それで僧(睡み合ひ、人の和合)もできるんやということは、決して嘘では無かったと。

ご院家さん、今年はいつご都合つきまっしゃろ。みんなに知らさんとなりまへるので、なるべくはやめにお知らせください。楽しみにしています。

## みのりを聞く会

### 最終定例法座

この一年間、おもに「正信偈」さまをばつぼつ学習してまいりました。  
十二月二十六日(木)午後七時  
とし締めくくりの法座です。  
お参りください。  
今回は亀井幸男さまのお供養でつとめます。



のびた爪は  
切れるが  
切れない

## 除夜会 (じょやえ)

おおいなる限りなき御恩のうちにありながら、あくなき自己中心の煩惱のとりこになって暮らしてきたこのひととせをかえりみ、広大無限なひかりにてらされながら、ものみな共に生きる新しい年を、除夜の鐘の音に託して願ひしましょう。

- 一〇時 帰三宝偈
- 本典総序・教巻
- 正信念佛偈
- 一一時二〇分 除夜の鐘
- 〇時 重誓偈



## 十二月のこよみ

- 二日 唐川報恩講
- 平田専福寺報恩講
- 二日 同じ
- 三日↓六日 講師養成中央実習(本山)
- 七日 正法寺報恩講
- 八日 正法寺報恩講
- 合同役員会
- 九日 同じ
- 十日 奥小谷報恩講 玉日会定例
- 蔭山義和氏宅法事
- 十一日 保谷報恩講
- 野尻・矢根報恩講
- 十三日 矢根報恩講
- 十四日 小田報恩講
- 十五日 口小谷報恩講
- 十六日 小田報恩講 十六夜会定例
- 十七日 小田報恩講
- 十八日 百合・桐野・寺坂・日野辺報恩講
- 丸中・片間・鉢山報恩講
- 十九日↓二十日 他出門徒報恩講
- 二一日 豊岡報恩講
- 二二日 亀井孝氏宅法事
- 暮坂報恩講
- 二三日 出合報恩講
- 年末清掃奉仕
- 二四日 年末清掃奉仕
- 二五日 平成九年代議員等届け
- 二六日 みのりを聞く会
- 二六日 除夜会
- 三二日 除夜会

## 年末清掃奉仕

十二月二十四日(火)  
午後1時より  
本堂内外を清掃し清浄にして新しい年を迎えましょう  
ご奉仕くださいませ。



# 年回法要

世間一般には、年回法要のことを「年忌」といったり、「先祖供養」をする日と考えています。

それは、どんな人でも死んだ以上は忌むべき穢れであり、その祟りを祓(はら)うための行事が、葬礼や年忌だと考えているからです。

浄土真宗ではそうは考えません。

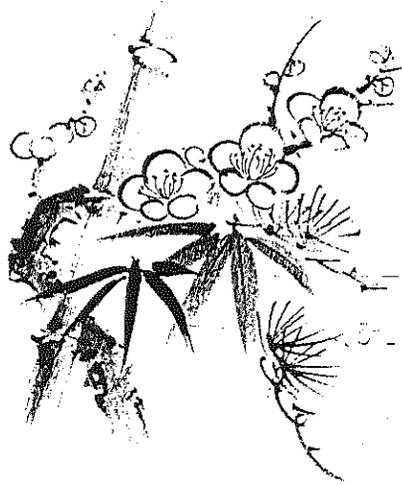
如来さまの救済のおはたらきにめざめたら、この煩惱の身のままが、即、如来さまの摂取のなか。煩惱のいのち尽き死んだときには、即、如来さまの世界お浄土へ迎えられほとけとならせていただく。これが浄土真宗です。

先に亡くなった方々も如来さまのおはたらきのなかからめとられ、今それぞれに如来さまのお仕事のお手伝いをなさっているはずですよ。

ですから浄土真宗では、祖先の霊を忌むたり祓(はら)ったりする必要はないのです。

如来様(法・仏)のおはたらき(事)を讃え感謝するという意味で「法事」とか「仏事」というのです。

そしてその日を縁に如来様のおしえの肝心かなめ(要)なことを聞かせていただくとお勤めするから「法要」といっているのです。



昔からの慣例として年回法要は次のようにお努めます。

- 一周忌 死亡の翌年
- 三回忌 死亡の年から三年目
- 七回忌 十三回忌 十七回忌 二十五回忌 三十三回忌 五十回忌 百回忌

勝林寺では過去帳から繰り出したものをお正月参りのときにお渡ししています。その繰り出しの命日をメドにして各戸お寺と相談のうえ法事の日取りを決めてください。

勝林寺は平成九年、次の年回法要をお迎えます。

- 前坊守 七回忌(7/25)
- 前任職・前坊守 十七回忌
- 前前坊守 五十回忌
- 前前前任職 百回忌



## 雪に

とける力はない

## 太陽の光を

とける



## 煩惱摂取



「あなた、孫が可愛くって可愛くってなんにも手につかないだつて。」  
Aさんは、鼻先でせせら笑うようにしていいました。

「あのねえ、それが愛に溺れるっていうのよ。そんなのが結局孫のいのちをそこねてしまうのよ。」

Aさんは、わたしなんて足元にも及ばぬ秀才だし、理論家だし。それにこのごろ宗教の勉強なんかも熱心しているよーだし。

そのAさんに冷ややかに突き飛ばされたんでは、わたしモウなんとも言いようがありませんでした。

「え、わかる。孫が可愛いなんて、それは愛というけど、孫のいのちを見下した言いようでしょ。そうじゃあないの。孫であれ親であれ、犬であれ草木であれ、いのちは元来平等なの。あなたの家の仏教でも、山川草木悉皆成仏って言うじゃあないの。可愛いって思うのは邪念、きたない本能、煩惱よ。」

じゃあなくて尊敬しあうの。尊重しあうの。いい、わかった。」  
Aさんのこのすばらしい熱弁を聞いて、わたし。孫可愛い、いとおいで、孫に振り回されているわたしが、あわれにさえ思えました。

しかし一方、それは邪念だ煩惱だとさげすまれても、それを捨て切れないわたしはどうしたらいいのでしょうか。

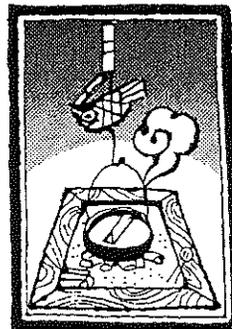
Aさんだって、ほんとうは同じ煩惱もっているながら、いやその煩惱を自分で背負きれないので、それで、ややこしい理屈論をみつつけてきて、そこへAさん逃げ込んでいて逃げ切れない煩惱凡夫を正直に生

きればいいじゃあない。  
わたし、そんなことを考えてしまいました。負け惜しみみたいですが。

親鸞さまは、比叡山のお坊さんたちから、邪念だ凡夫だ悪人だと切り捨てられてしまったその悪人凡夫がそのまま救われなければウソと、ご本願の念佛をとなくてくださったのと違いますか。

Aさんになじられた悔しさをわたし聞いていたかったです。

(匿名老女)



## 代議員様へ お願い

あなたの地区の、平成九年度のあたらしい「代議員」と「仏婦評議員」を報告ください。

「仏壮理事」については若し変更があればお知らせください。

ご面倒ですがハガキで二十一日までにご通知ください。

地区名( )

新代議員( )

仏婦評議員( )

仏壮理事( )